

雪

フォト劇場 (71)

写真が生まれるものがたり

狩勝の峠越えると雪の舞う空ほころびて雪散る散
りる
伊藤てい子

月一で狩勝峠を越え、幾寅のクリニツクに通
っている。十一月、帯広は青い十勝晴れの空
が広がっている。でも日高山脈の向こう、幾
寅は同じ十勝なのにもう雪の中の白い町。毎
年のことながらまるで違う世界に驚く。

うづもれし4メートルの積雪計さをさしさがす大
雪の朝
佐藤弥生

四十年前の冬のこと。信越国境の津南町の中
津川流れる段丘の上の小学校では、校庭の積
雪計が一夜の大雪に埋没。雪中に掘り当て、
竹尺を継ぎ足してその冬の最深積雪4m57cm
を記録しました。



写真・木畑紀子

背を丸め彼がこちらへ来るように雪積む枝の奥を
見ている
川村りら

鳥取は、ひと冬に必ず一度は大雪が降る。平野部での積雪一メートルもよくあること。真冬の列島に西高東低の等圧線が五本あればそれは大雪寒波の知らせ。除雪道具を確認し、蜜柑籠をいっぱいにして身構えるのだ。

く
会葬の人に礼する母の背のたちな紋に粉雪しま
黒田邦子

父は2000年2月九十五で亡くなり、母はその十三年後一〇三で亡くなった。二人とも死の際まで健やかに生きた。五人の子はいま七十代、八十代になり各々の老いの姿を生きている。人生は続く。